

〔シスコシステムズ〕

(1) IP化の進展がネットワーク形態に与える影響

1) 企業とコンシューマを分けてお答えします。企業においては、保守のコスト削減、音声とデータ、ビデオの統合による生産性の向上等の利点が見込めるので早いスピードで展開が進む。ただしその場合でも新しいオフィスやビルへの移動時、PBXの償却期間切れ時の置き換えのような形で進む。

従って企業内に関してはIP網への移行が加速的に進む。

コンシューマに関しては、安いというだけでは展開スピードはそれほど加速するとは思えない。携帯電話におけるiモードのような付加価値サービス必要だと考える。従ってIP網とPSTN網の共存は相当期間続くと思われる。

2) IPのバックボーンは現在の構造で充分対応できるので、構造レベルでの影響は考えられない。ただし、より早いスピード、より大規模なネットワークが必要とされるため、光技術とIPの融合、MPLS技術の展開は進む。

アクセス網に関しては、ADSL から FTTH のような高速の双方向性を持ったものになっていく。

3) IP化の進展により、電話だけでなく、ビデオや、監視カメラ、制御、検針のネットワーク等個別に構築していたネットワークがIPに統合されていく。

(2) IP化の進展が電気通信市場構造に与える影響

1) IP化の進展に従って、電話サービスと電話ネットワークという一体となったモデルから、電話サービスがブロードバンドの一つのサービスとなる形に変わっていくため競争原理が変わる。そのようなブロードバンドで他のサービスで十分な収入が得られる場合は電話サービスの値段を下げる事が可能になり、電話サービスだけをビジネスとしているところは競争が難しくなる。

2) 電話ネットワークと電話サービス、放送と放送ネットワークというような結びつきがIPネットワークを使うことによって必要なくなり、参入が容易になる。また国境を越えたサービス提供が可能になる。

(3) IP化の進展が競争環境整備の在り方に与える影響

1) サービスの種類と品質の競争を促進することが必要。設備に関しては、サービスの種類と品質によって基盤として決まってくる。

2) 機器やサービスの相互接続性を規制ではなく、検証できるようなしくみが必要である。

3)、4) IP化ということは、グローバルに接続可能になると言うことなのでグローバルな視点からの競争の見直しをすべきである。